

魅力ある村づくりのヒント！

観光地の視察から感じたこと

1月・2月は、家業が冬眠というところもあり、山陰各地の観光地を訪ね、観光施設や観光ルートへの視察、そして行政担当者の方々と交流しました。

そのほかに、地域活性に関するセミナーにも参加し、山中湖村の今後の「むらづくり」について、多くのヒントを得ることができました。

今回たずねたほとんどの地で、「客足が落ち込んでいます」「深刻です」という言葉を聞きました。実際にまわってみて、元気を感ずる所とどうしようもないと感じる所に、共通するものがありました。

勿論インターネットなどで事前調査をしますが、現地では「観光案内所」を必ずたずねました。

ここで、「接客の雰囲気」「資料説明などの細やかさ」などをチェックします。「こまめな細やかさの伝わってきた観光地は、まちがいなく地域全体が暖かく、落ち着いた底力を感じました。」

そして、案内所の担当者に「あなたが一番おすすめの場所はどこですか？」と質問します。すると、「本当はねー」として嬉しそうに地域の歴史の史跡や、街を見下ろす絶景の高台など、パンフレットには大々的に載っていないところをおすすめして紹介してくれました。

自分の住むまちの歴史や伝統に誇りをもち、その思いが伝わってくる、もう一度再訪したい魅力を感じます。

また、行政担当者との会話でも単に「観光活性」という点だけではなく、自分たちが住む「美しいまちづくり」を基本テーマとして、市民を巻き込んだ意見交換や「まちづくりプラン」を進めている話を、情熱的にしてくれた所もありました。

しかし、「モノ」といわれる施設の建設や、「過性のイベント」の誘客方法について限界を感じており、「どこでも財政面での深刻な反省点も聞かれました。」

旅の楽しみのものである「食」についても、キーワードは「その地ならではの、本物によるもてなし」であり、宿泊やお店の方との対話が自然とあつむ所は「満足度」を高めてくれました。

今回の旅を通して共通していることは、次のようなことだと思えます。

全国的にどの観光地も低迷しているが、自分たちの土地と伝統に対し誇りと愛着をもち、観光業者、行政担当者、それにその地域に住んでいる多くの人々が一体となって、暮らしの原点を見直している地域は、着実に復活しつつある。

観光業、行政、一般市民のいすれかに、活性化に対する具体的な情熱を持っている人が一人でもいるところは、

地域づくりの自信が伝わってきた。プランづくりの情熱は感じるが自己宣伝が強く観光客のニーズの変化に心の都合いが薄いところは、住民の気持ちもハラハラだった。(殺伐とした観光地だった)

自分たちの町の伝統、産業、暮らしを見直し、「美しいまちづくり」のために独特の「美の基準」などを定めている町を視察して、まちづくり行政の先進的モデルとして大いに参考になった。

地域づくりセミナーでの学びと発見

「まちづくり」「地域づくり」をテーマとしたセミナーに何回か参加し、地域づくりの研究者やアドバイザーの講義や各地の実例を学び、大きな発見とヒントがありました。

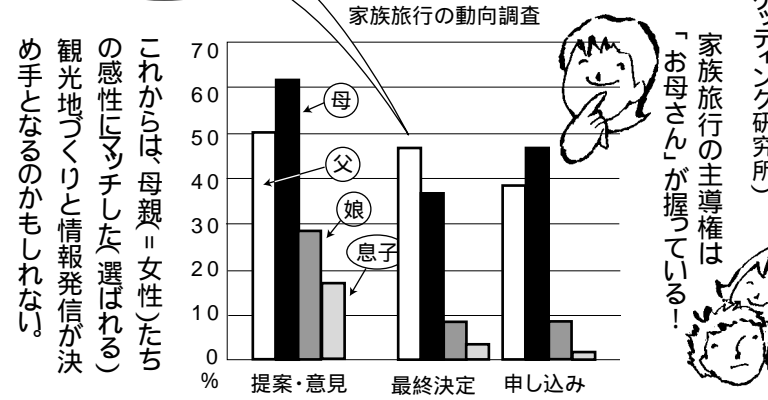
その中で特に印象に残った点を紹介し、山中湖村の参考にしていきたいと思えます。

観光旅行に関する意識調査

(ツリズムマーケティング研究所)

旅行の申し込みは、何の情報で参考になりましたか？

インターネット
旅行パンフレット・チラシ
友人知人(口コミ)
インターネット
決め手となった情報は？



前村長の会社“自己破産”の報道に接して

樋口は3年前、前村長による土木公共事業主体の村政や財政を改革しなければと、議員への立候補を決意しました。先日、前村長が経営する美術館やリゾート開発会社を筆頭に、土木生コン事業のファミリー・グループ企業が莫大な負債を抱えて自己破産したことが報道されました。

前村長の会社が250億円、その他グループ企業(社長は長男)分を合計すれば、総額約460億円以上もの金融負債(借金)でした。

前村長・3期12年の間にできた村の借金は、現在約100億円も残っている一方、自らの会社ではその4倍以上の借金をしていたわけです。

報道によれば、計画破産をするため会社の名前を変更し、登記を東京に移し、破産手続きを東京でこっそり進めようとしたことは明らかです。残そうとする会社も看板を書き換えています。心ある村民の間で「きわめて姑息なやり方だ!」との強い批判を耳にします。樋口も全く同感に思います。

経済社会の心臓部にあたる金融機関に莫大な損害を与え、会社や自分たちは自己破産により免責されようとするならば、あれだけ権勢を誇ったかつての公人として、村民に対し何らかの釈明と身の処し方を示して欲しいものです。

なぜなら、当人たちは自己破産により今までの借金は身軽になるかもしれませんが、村の借金は、今後も村民が払い続けていかなければならないからです。

村民の皆さんは、村や子供たちの将来のため、もう一度この数値と事実を確認してほしいと思います。

注目される地域の実例と特徴

- ★長野県〇町の場合
 - 《取組んだ主な事業》
 - 町並み修景事業 今までの良さを生かしながら
 - 「町民の積極的な居住環境の改善」
 - 「外はみんなのもの。内はじぶんのもの」
 - オープンガーデンを設ける
 - 異文化交流の始まり…自分だけでは見えないもの
 - 「発見」…様々な発見と再認識をする
 - 「共存」…異質を認める
 - 異質であり続ける
 - 「発展」…産業交流、自立に役立ていく
 - 行政と住民の協働
 - この町には、人口の1000倍の観光客が訪れている。
- ★長野県K村の場合
 - 昭和47年に「開発基本条例」を策定
 - 「究極の地域づくりは、美しい風景をつくること」
 - 「景観は、観光客を呼び込む最大の条件である」
 - 《主な事業》
 - K村には、けげげげしい建物や看板がない
 - 集落内景観整備事業
 - 村内銘木百選事業…観光と暮らしの財産
 - ペンキ代助成事業…指定色に塗り替える時統一看板整備事業…風景に合ったアイデア看板

★神奈川県M町の場合

沿道景観整備事業などこれにより、観光客(来訪者)は3倍に増えた

《主な取組み》

10年前に「まちづくり条例」を制定

昨年の景観法施行にともない、K県で第3号の「景観行政団体」に移行

地形と地元産業の特色を生かした「景観計画」の作成

市民団体代表の景観審議会への参加

国の法律以上に厳しい土地利用指定と建築基準

図解を用いた「美の基準」とその応用

「景観は金になる!」との確かな手ごたえをつかんでいる

旅に出た時、チョッと視点を変えて観察すると意外な発見があります。

皆さんも試してみてください。

お知らせ

3月は、18年度予算を審議する**定例議会**が開催されます。日時は議会事務局までお問い合わせください。62-3166

これからの山中湖を考える会
3月2日(木)夜7時から
於:情報創造館

●●●
観光地視察の報告
山中湖の今後を語り合う
お気軽にご参加ください